

九州産業大学 子育て支援室

会員制による地域に根差した子育て支援

人間科学部
子ども教育学科
教授

上出 恵子



研究シーズの紹介

本研究は、本学の子育て支援室の活動から、少子高齢化、核家族化、人口減により喫緊となった子育て支援の新たな可能性を明らかにするものである。開室時間（学年暦に基づき、原則、月～金、9:30～16:30）から、未就園児の親子、特に第1子と母親の利用が中心となるが、赤ちゃんと初めて安心して出かけられる身近な場所、家事に煩わされず子どもとゆっ

くり遊び、親子の絆を強くする場所として、高い評価を得ている。いわゆるカプセル保育、孤育ての軽減となるのはもちろん、定期的利用による会員同士の自然なつながり、ひいては地域の共同体意識も培われている。会員制なので、緊急事態宣言下でも動画配信により継続した支援が可能となった。



会員制

- ひとりひとりに合わせたきめ細かな支援が可能です。
- 会員同士のつながりが専門職の支援とあいまって親のエンパワメントに効果的です。

子育て支援室の特徴

- ◎近隣の子どもプラザと差別化をはかり、子どもの生活リズムをつくるために、**週に2回程度利用する形式の会員制**である。
- ◎乳幼児の発達領域を考慮して、多様な遊びのスペースを準備し、**豊かな遊びができる環境構成**をしている。
- ◎子ども教育学科の教員や学生等多様な世代が交流するための**多様なプログラム**がある。
- ◎学内に設置されているため、学食等の学内施設の利用、水路周辺の日本庭園の散歩や子ども教育学科の花壇、砂場等での**戸外活動が体験**できる。

アンケート調査(2020年1月実施)から:

- ・いつも決まった方が来られるので、顔見知りになって嬉しい。
- ・少人数でゆっくり過ごせる点が他施設と違う。
- ・子どもが毎回とっても楽しみにしている(もちろん私も)。家では経験できない刺激を与えることができ、成長に役立っている。私自身も息抜き時間。先生から教わることもいつも勉強になる。
- ・先生にアドバイスをしてもらい救われた。子どもにも支援室に通っているという帰属意識のようなものが生まれ、自信がついたようだった。行き帰り、歩いていくことがかけがえのない親子の思い出になった。

期待される活用シーン

●子育て(とくに初めての)に不安!



定期的に通い、遊ぶことで基本的な生活リズムができる。常駐の専門職や大学の研究者に相談できる。



●赤ちゃんとでかける場所が身近にない!



充実した施設と会員制で安心。このような場所が身近にある地域への信頼が生まれる。地域も活性化する。



その他の研究テーマ

絵本および素話(おはなし)と子どもの育ちをめぐる研究
児童文学を含む日本近代文学に関する研究